

## 【別紙2】

### 大阪市立中野小学校 令和元年度校長経営戦略支援予算【加算配付】実施報告書 (補足説明資料)

本校の児童は、与えられた課題をこなしたり、きまりを守ったりすることはできるが、自分から意欲的に課題を見つけ、進んで問題を解こうとする児童は少ない。また、周りの人間関係を気にして自分の思いを上手く話せない児童もいるので、話しやすい学級集団作りを心がけ、進んで自分の意見を表現できる子どもを育てることが必要である。論理的にものごとを考え組み立てていくことも苦手なので次年度に向けてプログラミング教育に取り組んでいく。児童学校生活アンケートの「学習したことがよくわかる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。「自分の考えを説明したり、発表したりした」の項目について、肯定的に回答する児童の割合80%以上にする。また、小学校経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる」ことを年度目標とし、年度目標に応じた事業効果を測る指標として、「ICTを活用して教育活動を充実させ、よりわかりやすい授業づくりを進める。

また、すべての学習活動で、自分の考えを説明し合う場を多く設定し、自分を表現する力を向上させる。

上記を達成するために、以下の1つの取組を行った。

#### 1. 取組内容（1）について

##### 1-1. 取組を実施する必要性

本校では、算数を研究教科で5年前から取り組んでいる。系統立てて問題解決学習を行っているが、ICTを活用した授業が全校として取り組めていない状況である。そこで、デジタル教科書やタブレットを活用した授業の工夫を行うことが（それを行える環境の整備（授業準備の負担軽減等）も含む）が必要である。

上記の課題を解決するために、教育振興基本計画における「施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組」の一環として、「ICTを活用して教育活動を充実させ、よりわかりやすい授業づくりを進める。

また、すべての学習活動で、「自分の考えを説明し合う場を多く設定し、自分を表現する力を向上させる」ことを実施する。

次年度の実施に向けて、プログラミング教育の研修を2回以上行う。

## 1－2. 取組を実施することにより期待できる効果

「デジタル教科書の活用により、児童の学習意欲を向上させ、母集団全体での対象児童の単元テストの正答率の向上につなげる」ことが期待できる。また、「授業準備にかかる負担軽減により、課題のある児童の状況分析を行い、分析結果に応じた重点的指導を行うことで、単元テストの正答率の底上げにつなげる」ことが期待できる。タブレットを活用することで、小グループで自分の考えを説明し合う場をもち、表現しようとする意欲につながる。次年度の実施に向けて、プログラミング教育の研修を2回以上行うことで、スムーズに進められるようにしていく。

## 1－3. 具体的な実施内容

具体的な実施内容としては、下記のとおりである。

### ① デジタル教科書の活用

具体的には、授業用パソコンに取り込んだデジタル教科書を使って授業を進めることで、教材作成の時間を軽減したり、視覚支援を行ったりして児童の学習意欲の向上につなげる。西校舎は、光が差し、プロジェクターでは、見えにくいので大型テレビの台数を増やして学習の効果を上げる。

### ② プログラミング学習実施のための準備

具体的にはトゥルトゥルというロボットを使って低学年からできるプログラミング学習の実施について研修を2回以上する。また、研修したことを生かして、実際に各学級で授業をする。

## 1－4. 取組に対する達成状況（A～D）及びその評価理由

### ・取組に対する達成状況：A

### ・評価理由：

取組内容①においては、デジタル教科書やタブレットを使って学習を進め、ICTを使った授業は分かりやすいという児童アンケートの目標を85%に設定していたが、結果は大きく上回り、94%であったので十分成果をあげることができた。

また、取組内容②においては、講師を招いての研修会を3回行い、トゥルトゥルやスクラッチ、ビスケットなどを活用してそれぞれのクラスやクラブで児童がプログラミングを楽しんで学習することができた。

以上の成果から、A評価とした。

## 2. 総論

### 2-1. 年度目標の達成状況、総評

デジタル教科書やタブレットを使って学習を進め、ICTを使った授業は分かりやすいという児童アンケートの目標を85%に設定していたが、結果は大きく上回り、94%であった。やはり、視覚支援を多く取り入れたことで学習への意欲付けになり、集中して学習をすることができた。教材の準備の時間を軽減することで、児童の個別学習を放課後に十分とする余裕ができ、長時間勤務を減少することにもなった。大型テレビの導入によって西日が差しても見やすく、低学年の児童の学習意欲が向上した。

トゥルトゥルを購入したことで全学年がプログラミングの考え方を体験することができ、研修を3回もてたことで、教職員も少しプログラミング教育に対する苦手意識が減少した。

以上の結果から、年度目標に対する達成状況を「A」評価とした。

### 2-2. 学校協議会における意見

「学習用具が充実したこと・設備が整ったことで、来年度からのプログラミング教育に期待ができる」という意見をいただいた。